

自 平成二十六年九月十二日
至 平成二十六年十二月七日

秋
更
の
茶

展
示
目
録

寄付

掛物

宗達絵 光廣筆 色紙

後京極攝政太政大臣像

もらすなよ雲いるみねの初時雨

この葉は下に色かわるとも

脇

方広寺大佛殿鐙瓦 文祿四年銘

香合

仁清作 色絵瓢形扇面文 宗和箱

三井家伝来

汲出碗

古染付 山水絵

汲出盆

時代 栗木地毆

苳盆

鯨手付 菊桐透かし

火入

織部 誰ヶ袖形

平瀬家伝来

薄茶席 広間

掛物

重要文化財

佐竹本三十六歌仙絵 藤原仲文像

ありあけの月の光を待つほどに

我世のいたくふけにける哉

一文字 蜀紅錦 中風紫地印金

鈴木家伝来

花入

重要文化財

古染付 高砂

藤田家伝来

脇

清水九兵衛作 清見潟蒔絵硯箱

釜

古天明 時雨釜

炉

縁

真塗 宗哲作 覚々齋在判 碌々齋箱

棚

長板 八代宗哲作 石地塗

碌々齋在判同箱

風炉先

遠州好 鉄刀木金砂子箔置

水指

朝鮮唐津 一重口

益田家伝来

茶 器

菊蒔絵葉器 宗旦在判 一燈箱

替

志野 輪花口

鴻池家伝来

茶 碗

本手黄伊羅保

三井家伝来

替

道入作 樂織部写 銘田每

厂半中村家伝来

替

祥瑞 口紅胴紐腰鎧

茶 杓

常修院宮慈胤法親王作 共筒
予楽院茶杓筆筒の内天和二年在銘袋添ウ

近衛家伝来

建水

砂張鉄鉢

大原家伝来

蓋置

織部竹の節

菓子器

和蘭花鳥蜻蛉文

武田家伝来

干菓子器

山梔子文堆朱盆

西本願寺伝来

苩盆

一閑作手付木瓜形

火入

南京赤絵浮地文

苩入

唐物宝珠形独楽

煙管

浄益作庸軒好筋

特別展示

重要文化財

石室祖瑛墨蹟 無夢歌

大心義統幅添ウ

守屋家伝来

重要文化財

大毘婆娑論 卷三「東大寺」「松宮」印

蓮華唐草蒔絵二段経箱

北大路魯山人作 紅葉霞文中皿

同 織部俎皿

同 一閑 木ノ葉

今回の展示について

昭和三十九年の秋、北村は還暦の茶事を濃茶を珍散蓮、薄茶を動座していただいて看大の席で催しました。

生涯数多くの茶会は持ったものの、茶事は少なくこれが最初で都合四回だけでした。

今回の展示は、そのときの薄茶席の諸飾りを再現して、本年、重要文化財に指定された高砂花入を寿ごうと企画しました。

明時代末期に日本から注文した古染付のこの花入は、慶事に於ける花入の代表として屢々目にするほど入口に膾炙したものです。

砧を想像させる形姿に、龍門を登る鯉の耳をつけ、謡曲「高砂」の尉と姥や相生の松とめでたづくしのデザインで吉祥道具に仕立てようとしたものといわれています。

日本の事情を知らない異国の職人にしてはよくできていますが、何よりも形の大らかさ、色あいの美しさは類品中の白眉として、今回重要美術品より格上げされたものです。

どうか、そのつもりでご覧くださいませ。

北村美術館

京都市上京区河原町今出川南一筋目東入ル

TEL (075) 256-0637